

Title	窪川一雄君を悼む
Author(s)	山本, 一清
Citation	天界 = The heavens (1943), 23(268): 330-330
Issue Date	1943-10-25
URL	http://hdl.handle.net/2433/168663
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

窪川一雄君を悼む

The late Mr. Kazuo Kubokawa.

山 本 一 清 Issei Yamamoto.

今年は、我が國の天文學界に於いて、上半年中に三人の専門家を失つた。一月19日に水澤の川崎俊一博士が亡くなり、四月8日に平山清次博士が歿されたが、日附けから言へば此の兩博士の何れよりも先き立つて、一月3日に窪川一雄君が病死された。享年37歳。痛惜の至りである。

窪川君は明治36年岐阜市に生れ、岐阜中學校と第八高等學校とを経て、大正15年三月秋山、秋吉、鐺木、塚本の諸氏と同期に東京帝國大學天文學科を卒業し、直ちに東京天文臺技手となり、昭和13年初め臺灣總督府技師に就任した篤學の士である。東京に在職中、君は及川、(故)木下諸氏等と共に小遊星や彗星等の寫眞觀測を試み、又、皆既日蝕の觀測のため昭和9年二月14日南洋ロソブ島と、昭和11年六月19日北海道紋別へ出張したこともある。その他、月による星の掩蔽、新星や變星等についても若干の觀測効果を挙げた。臺北に移つてからは、主として航空氣象の觀測研究に當つてゐたけれど、尙、純天文學への興味と計畫とを有ち續け、同時に、臺北天文觀測同好會を主裁して、本會支部のために盡力を惜しまなかつた。臺灣は南進日本の基地であるといふ意味に於いても、君の存在は、學術上に、又、天文普及上に重要であつたのに、圖らずも働らき盛りの年輩で逝つたのである。(終)

質 疑 應 答

問：荒木俊馬著“天文學概觀”に、黑點相對數は“孤立黑點及び黑點群の數の十倍と孤立黑點、黑點群の區別なく、あらゆる個々の黑點の總數との和である”と書かれてゐますが、少し意味がわかりかねますので、御説明願ひます。

(大阪生)

答：なる程、一寸ヤヤコシイ文章ですね。實は此うなのです。例へば、太陽面上に次ぎの3群の黑點があるとしします：

第1群(黑點5個)、第2群(黑點8個)、第3群(黑點1個)

この場合の相對數は、

$$3 \times 10 + 5 + 8 + 1 = 44$$

といふ風に計算するのです。(A. C.)